

# ☆放課後子ども教室☆

冬の入り口に立ち、頬にあたる風の冷たさが身に沁みます。子どもたちも暖かそうなジャンパーや、手袋や帽子をかぶってくる子が増えてきました。長かった2学期も残すところあと1か月。体調を崩すことなく過ごしてほしいと思います。

10月後半の放課後子ども教室では、秋の味覚を味わうおやつ作りや、通称、ドイツゲームと呼ばれるカードゲームやニュースポーツ、ハロウィンに合わせたレクリエーションなどを行ないました。学習発表会前のため、体育館でのボール遊びや走り回ることが制限されるこの時期は、外で遊んだり室内の小スペースでできる活動を考えています。チームで協力をするこもあれば、駆け引きをしたりもするドイツゲームは、戦略を練るために頭を使うので、想像以上に集中力を使います。また、瞬発力が必要なゲームもあり、いつものように体を動かす遊びができなくても、子どもたちの表情はとても明るかったです。10月のおやつ作りは、厚真産の食材を使ったキノコ汁とカボチャ団子を作りました。白玉とカボチャで作った鮮やかな黄色のお団子は、ほんのり甘く、モチモチとした触感。出汁のきいたキノコ汁とも相性抜群です。「キノコはあんまり好きじゃないけど、今日は食べられた!」と笑顔で報告してくれた子の姿もありました。自分で作ってみんなで食べると、苦手な食材にもチャレンジすることができるのだと思います。



11月前半の活動では、オリジナル種目で競うスペシャル運動会と、放課後ミニ実験・紙飛行機の科学を行いました。スペシャル運動会では、定番競技の玉入れやリレーにひと工夫。クイズを取り入れたり、道具を使って走るスピードに差をつけたりすることで、運動が得意ではない子も積極的に参加し、大変盛り上がりました。中には勝敗にこだわりすぎてしまい、仲間と衝突することもありましたが、こうした心の揺れ動きも子どもたちの成長には必要だと考えています。自分の想いと相手の気持ちのバランスを考える場面は、これからの活動でも作っていきたいと思います。ミニ実験では、子どもたちにも簡単に折ることができる紙飛行機を題材に、なぜ紙飛行機は浮くのか、紙飛行機を長く飛ばし続けるためにはどうすれば良いのか、実際に紙飛行機を作りながら実験をしました。重心、羽根の大きさ、折り方、飛ばす時の速度や角度など、ヒントをもとに改良を重ね、飛距離を伸ばします。低学年でも簡単に作れる紙飛行機ですが、こうして考えるととても奥が深く、スタッフも一緒になって試行錯誤しながら紙飛行機を作り続けていました。先月の種模型作りに引き続き、子どもたち自身が手を動かし、イメージしたものを形にしようと工夫する姿は、見ている側もワクワクします。スーッと真つすぐ遠くへ飛んでいく紙飛行機に、たくさんの歓声が上がりました。

